

第10節 文化財の保存と活用の推進

現況

熊本県には、有明海沿岸の貝づか、様々な文様が描かれた装飾古墳、古代朝鮮式山城である鞠智城跡などの「史跡」、全国的に貴重な石橋などの「建造物」、阿蘇の農耕祭事などの「無形民俗文化財」が存在しています。そして、その中でも特に重要な文化財については、後世へと守り伝えていけるよう、国・県・地元市町村が指定し、その保護に努めています。

平成24年11月、西南戦争遺跡（熊本市・玉東町）が国史跡に指定されることとなりました。西南戦争は、明治10年（1877）南九州一帯で行われた国内最大・最後の内戦です。薩摩軍と政府軍の激戦の場となった田原坂をはじめ、横平山、半高山・吉次峠、砲台及び官軍墓地等が良好に残り、極めて貴重といえます。明治以後の戦跡に関する本格的な史跡指定としては、国内で初めてとなります。

また、「九州・山口の近代化産業遺産群」や「阿蘇一火山との共生とその文化的景観」、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」など、世界文化遺産への登録に向けた様々な取組も進められています。

課題

このように、本県には貴重な文化財が数多く存在しています。しかし、それらは、地元の人たちにとっては身近すぎて、その価値が十分に認識されていないところがあるのも事実です。

文化財を通して県民に郷土の歴史や文化に対する理解を深めてもらうため、これまでの調査成果を積極的に公開・活用し、県民自身が身近にも貴重な文化財が存在することに気づき、文化財を未来へ残していこうとする心をはぐくむこと、地域づくり・町づくりにつなげていくことが重要です。

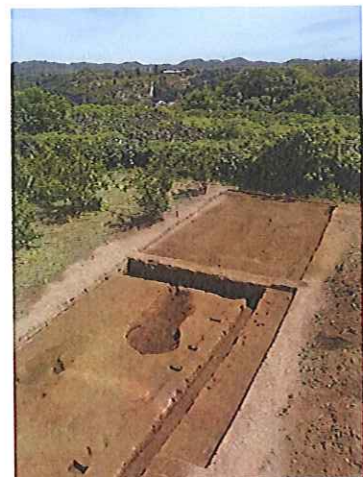
取組

県民が、これら多くの文化財に親しめるよう、本県の歴史や文化を理解する上で欠かすことのできない、埋蔵文化財の発掘調査や研究を実施し、公開・広報活動など、様々なイベントを開催し、総合的な保存・活用に努めています。

平成23年度からは、県ホームページ（くまもとGPマップ）にて熊本県遺跡地図の運用を開始しました。熊本県文化財資料室では、県内の発掘調査現場でみつかった多くの出土品の整理・保管・活用を行っています。

また、県内の発掘調査現場では、発掘体験、発掘現場を見学する「夏休み発掘体験・見学会」、「くまもと教育の日・発掘調査現場一斉公開」を開催しています。さらに、その年度に実施した発掘調査の成果を県民の方々に報告する「発掘調査速報会」も年1回開催しています。また、「文化財通信くまもと」の定期的な発行なども行っています。

最近では、文化財担当部局だけではなく、開発部局と連携を図りながら身近な文化財について知ってもらうような活動も行っています。



国指定史跡 西南戦争遺跡（熊本市・玉東町所在）

写真は、玉東町教育委員会提供